

基準4 避難上又は消火活動上有効な開口部の取扱いに関する基準

- 1 次に適合する踏み台等が設けられている場合は、規則第5条の3第2項第1号中「床面」とあるのを、「踏み台等の踏み面」と読み替えることができる。
 - (1) 不燃材料で造られ、かつ、堅固な構造であること。
 - (2) 開口部が設けられている壁面との間にすき間がなく、床面等に固定されていること。
 - (3) 床面から踏み台までの高さがおおむね0.3m以下であり、大きさは、奥行0.3m以上で、当該開口部の幅以上の幅であること。

- 2 規則第5条の3第2項第2号の「その他の空地」とは、次に掲げるものをいう。
 - (1) 国又は地方公共団体が管理する公園等で将来にわたって空地の状態が維持されることが確実なもの。
 - (2) 屋上、傾斜地、河川敷等で避難及び消火活動が有効にできると認められるもの。

- 3 次に掲げるものは、規則第5条の3第2項第3号の規定に適合する開口部として取り扱うことができる(第4-1表参照)。なお、「低放射ガラス(通称Low-Eガラス)(消防庁事務連絡「消防用設備等に係る執務資料の送付について(平成23年12月28日)」におけるものをいう。)」については、同ガラスに使用される基板と同等として取り扱ってさしつかえないものとする。
 - (1) はめごろしの窓等で、次のいずれかに該当するもの。
 - ア 日本産業規格(産業標準化法(昭和24年法律第185号)第20条第1項の日本産業規格をいう。以下「JIS」という。) R 3203に適合する型板ガラス
 - イ 厚さ6mm以下で、次のいずれかに該当するものを使用するはめごろしの窓等
 - (ア) JIS R 3202に適合するフロート板ガラス又は磨き板ガラス(以下この基準において「フロートガラス等」という。)
 - (イ) JIS R 3208に適合する熱線吸収板ガラス(以下この基準において「熱線吸収ガラス」という。)で材料板ガラスに熱線吸収網入板ガラス(以下この基準において「熱線吸収網入ガラス」という。)を使用するもの以外のもの。
 - (ウ) JIS R 3221に適合する熱線反射ガラス(以下この基準において「熱線反射ガラス」という。)で材料板ガラスにJIS R 3206に適合する強化ガラス(以下この基準において「強化ガラス」という。)を使用するもの以外のもの。
 - ウ 厚さ5mm以下の強化ガラス、JIS R 3223に適合する耐熱強化ガラス(以下この基準において「耐熱強化ガラス」という。)、耐熱板ガラス又は熱線反射ガラスで材料板ガラスに強化ガラスを使用するはめごろしの窓等
 - エ ポリエチレンテレフタレート(以下「PET」という。)製窓ガラス用フィルム(JIS A 5759に規定するもの。以下同じ。)のうち、多積層(引裂強度を強くすることを目的として数十枚のフィルムを重ねて作られたフィルムをいう。以下同じ。)以外で基材の厚さが100 μ m(0.1mm)以下のもの(内貼り用、外貼り用を問わない)を前ア又はイのガラスに貼付けしたもの。
 - オ 複層ガラス(2枚以上の板ガラスを一樣の間げきをおいて並置し、その間げきに外気圧に近い圧力の乾燥空気を満たし、その周辺を封着したもので、JIS R 3209に適合するものをいう。以下この基準において「複層ガラス」という。)を使用するはめごろしの窓等で、2枚以上の材料板ガラスがそれぞれ前アからウまでのいずれかに適合するもの。

- (2) 2以下の錠(クレセント錠、又は補助錠をいう。)を解錠することにより、開放することができるクレセント付きの窓及び出入口(以下この基準において「クレセント付の窓等」という。)で、前号に適合するもののほか、次のいずれかに該当するもの。
- ア 厚さ6.8mm以下で次のいずれかに該当するものを使用するクレセント付きの窓等
- (ア) J I S R 3 2 0 4に適合する線入り板ガラス
- (イ) J I S R 3 2 0 4に適合する網入り板ガラス(以下この基準において「網入りガラス」という。)
- (ウ) 熱線吸収ガラスで材料板ガラスに熱線吸収網入ガラスを使用するもの。
- イ 外部にバルコニー、屋上広場等の破壊作業のできる足場が設けられているもので、前アに適合するもののほか、次のいずれかに該当するものを使用するクレセント付の窓等
- (ア) フロートガラス等又は材料板ガラスにフロートガラス等を使用するもの(J I S R 3 2 0 5に適合する合わせガラスを除く。)で、厚さ6mmを超え10mm以下のものを使用するクレセント付の窓等
- (イ) 網入りガラス又は熱線吸収網入りガラスで、厚さ6.8mmを超え10mm以下のものを使用するクレセント付の窓等
- (ウ) P E T製窓ガラス用フィルムで、多積層以外で基材の厚さが100 μ m(0.1mm)を超え400 μ m(0.4mm)以下のもの(内貼り用、外貼り用を問わない)及び多積層で基材の厚さが100 μ m(0.1mm)以下のもの(内貼り用、外貼り用を問わない)を前(1)ア又はイのガラスに貼付けしたもの。
- ウ 複層ガラスを使用するクレセント付の窓等で、2枚以上の材料板ガラスがそれぞれ前号アからエ又は前アのいずれかに適合するもの。
- エ 合わせガラス(2枚以上の材料板ガラスで中間膜(材料板ガラスの間に両者を接着する目的で介在する合成樹脂の層をいう。)を挟み込み全面接着し、外力の作用によって破損しても、破片の大部分が飛び散らないようにしたもので、J I S R 3 2 0 5に適合するものをいう。以下この基準において「合わせガラス」という。)については、クレセント付きの窓等で、次のいずれかに該当するもの。
- (ア) 次に掲げる合わせガラスを使用したもの。
- a フロート板ガラス6.0mm以下+P V B 3 0mil以下+フロート板ガラス6.0mm以下の合わせガラス
- b 網入板ガラス6.8mm以下+P V B 3 0mil以下+フロート板ガラス5.0mm以下の合わせガラス
- (イ) 次に掲げる合わせガラスを使用した窓等で、外部に足場を有するもの
- a フロート板ガラス5.0mm以下+P V B 6 0mil以下+フロート板ガラス5.0mm以下の合わせガラス
- b 網入板ガラス6.8mm以下+P V B 6 0mil以下+フロート板ガラス6.0mm以下の合わせガラス
- c フロート板ガラス3.0mm以下+P V B 6 0mil以下+型板ガラス4.0mm以下の合わせガラス
- 注 PVB…ポリビニルブチラール、30mil…0.76mm、60mil…1.52mm
- (ウ) 前(ア)又は(イ)以外の合わせガラスを使用した窓等で、「合わせガラスに係る破壊試験ガイドラインの策定及び無窓階の判定等運用上の留意事項について(平成19年3月27日消防予第111号)第一 合わせガラスに係る破壊試験ガイドライン」(以下この基準において「ガイドライン」という。)により実施した破壊試験(外部に足場が無い場所に設置するものについては、ガイドライン中の破壊

作業のできる足場がある場所に限り設置するものの試験方法により合格したものを除く。)に合格したもの。

- (3) 次に掲げる軽量シャッターが設けられている開口部
- ア 煙感知器の作動と連動して解錠された後、屋内外から容易に開放することができるもの(非常電源が付置されているものに限る。)
 - イ 避難階に設けられているもので消防隊が特殊な工具を用いることなく屋外から容易に開放することができるもの。
 - ウ 水圧解錠装置付のもの又は他の開口部から進入して内部から容易に開放することができるものは有効開口部として取扱うことができる旨指導すること。
 - エ 雨戸(共同住宅又は一般住宅仕様)として設けられたもので、開口部にバルコニー等の消防活動スペースが確保され、屋外より消防隊が特殊な工具を用いることなく容易に開放することができるもの。
- (4) 次に掲げる重量シャッターが設けられている開口部は有効開口部として取扱うことができる旨指導すること。
- ア 避難階に設けられているもので、屋内外から手動で容易に開放することができるもの。
 - イ 屋内外から電動により開放することができるもの。(非常電源が付置されているものに限る。)
 - ウ 屋内からは手動、又は電動により、屋外からは次のいずれかの方式により開放することができるもの。
 - (ア) 水圧により重量シャッターを開放する方式
 - (イ) 水圧により重量シャッターの押しボタンスイッチ等を作動させる方式(非常電源が付置されているものに限る。)
 - エ 水圧によりシャッター等を開放することができる装置の取扱いは、基準5によること。

4 規則第5条の3第2項第4号の規定する「開口のため常時良好な状態」の取扱いは次によること。

- (1) 次に掲げる状態のものは、常時良好な状態として取り扱うことができる。
- ア 格子、ルーバー、開口部に接近して設けられている広告物、看板、日除け、雨除け等を避難及び消火活動上の妨げにならないように設けたもの。
 - イ 開口部と間仕切壁等の間に通路を設け、間仕切壁等に出入口を有効に設けたもので、次の全てに適合するもの、又はこれと同等以上に支障がないと認められるもの。(第4-1図参照)
 - (ア) 通路は通行、又は運搬のみに供され、かつ、可燃物等が存置されていないこと等、常時通行に支障がないこと。
 - (イ) 通路及び間仕切壁等の出入口の幅員は概ね1m以上であること。
 - (ウ) 間仕切壁等の出入口と外壁の当該開口部との歩行距離は、概ね10m以下であること。

第4-1表

ガラス名称等			開口部の判定※1	
ガラス名称 (JIS番号)	厚さ	窓等の形態	足場有※2	足場無
型板ガラス (R 3203)	/	はめごろしの窓等	○	○
		クレセント付の窓等	○	○
型板ガラス (R 3203) にPET製窓ガラス用フィルム多積層以外100μm以下貼付け	/	はめごろしの窓等	○	○
		クレセント付の窓等	○	○
型板ガラス (R 3203) にPET製窓ガラス用フィルム多積層以外100μmを超え400μm以下、多積層100μm以下貼付け	/	はめごろしの窓等	×	×
		クレセント付の窓等	○	×
フロート板ガラス又は磨き板ガラス (R 3202) 熱線吸収ガラス (R 3208) 熱線反射ガラス (R 3221) } ※3 PET製窓ガラス用フィルム多積層以外100μm以下貼付け同じ	6mm以下	はめごろしの窓等	○	○
		クレセント付の窓等	○	○
	6mmを超え10mm以下	はめごろしの窓等	×	×
		クレセント付の窓等	○	×
フロート板ガラス又は磨き板ガラス (R 3202) 熱線吸収ガラス (R 3208) 熱線反射ガラス (R 3221) } ※3	6mm以下	はめごろしの窓等	○	○
		クレセント付の窓等	○	○
	6mmを超え10mm以下	はめごろしの窓等	×	×
		クレセント付の窓等	○	×
上段ガラスにPET製窓ガラス用フィルム多積層以外100μmを超え400μm以下、多積層100μm以下貼付け	6mm以下	はめごろしの窓等	○	×
		クレセント付の窓等	○	×
	6mmを超え10mm以下	はめごろしの窓等	×	×
		クレセント付の窓等	○	×
強化ガラス (R 3206) 耐熱強化ガラス (R 3223) 耐熱板ガラス 熱線反射ガラスで強化ガラスを使用するもの	5mm以下	はめごろしの窓等	○	○
		クレセント付の窓等	○	○
線入板ガラス (R 3204) 網入板ガラス (R 3204) 熱線吸収ガラスで熱線吸収網入ガラスを使用するもの	6.8mm以下	はめごろしの窓等	×	×
		クレセント付の窓等	○	○
	6.8mmを超え10mm以下	はめごろしの窓等	×	×
		クレセント付の窓等	○	×
複層ガラス (R 3209)	使用する材料板ガラスごとに本表により評価し、判定する。			
合わせガラス (R 3205)	・フロート板ガラス6.0mm以下+PVB30mil以下+フロート板ガラス6.0mm以下	はめごろしの窓等	×	×

	・網入板ガラス6. 8mm以下+PVB30mil以下+フロート板ガラス5. 0mm以下	クレセント付の窓等	○	○
	・フロート板ガラス5. 0mm以下+PVB60mil以下+フロート板ガラス5. 0mm以下 ・網入板ガラス6. 8mm以下+PVB60mil以下+フロート板ガラス6. 0mm以下 ・フロート板ガラス3. 0mm以下+PVB60mil以下+型板ガラス4. 0mm以下	はめごろしの窓等	×	×
		クレセント付の窓等	○	×
	ガイドラインにより実施した破壊試験に合格したもの	はめごろしの窓等	×	×
		クレセント付の窓等	○	○※4
倍強度ガラス (R 3 2 2 2)		はめごろしの窓等	×	×
		クレセント付の窓等	×	×

※1 判定欄における○にあつては、規則第5条の2第2項第3号の規定に適合する開口部として取り扱うことができるもの、×にあつては同項の規定に適合する開口部として取り扱うことができないものをいう。

※2 避難階又はバルコニー、屋上広場等の破壊作業のできる足場（注1）が設けられているものをいう。

※3 材料板ガラスにフロート板ガラス又は磨き板ガラスを使用したものに限る。

※4 ガイドラインの破壊作業のできる足場がある場所に限り設置するものの試験方法により合格したものを除く。

注1 構造：構造耐力上安全に設けられたもの。

面積：奥行0.6m以上、間口は窓の全幅以上で最小1m以上の通路に面していること。（引違いの場合、両面の全幅である。）

空地：足場の前面又は側面は、道又は道に通じる幅員1m以上の通路等に面していること。

その他：転落防止策が講じられていること。（高さは、足がかりを含め1.1m以上1.3m以下であること。）

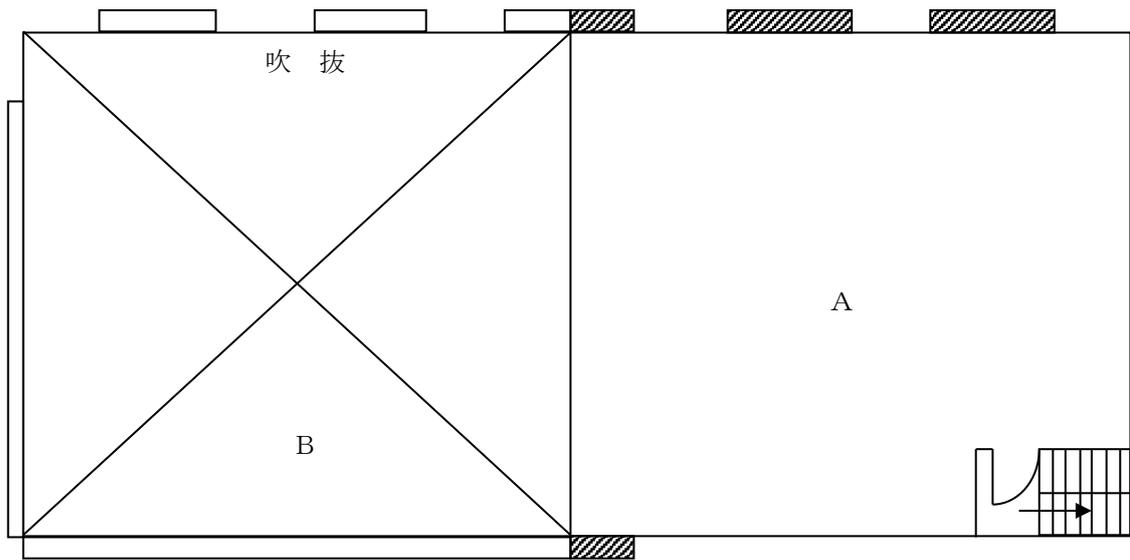
5 営業終了後シャッター等を閉鎖することにより無窓階となる階は、次の各号に適合する場合に限り、有窓階として取り扱うことができる。

- (1) 営業中は、有窓階であること。
- (2) 営業終了後は、防火対象物全体が無人となること。

6 吹抜けのある場合の床面積及び開口部の取り扱いは、次の各号によること。(第4-2図参照)

- (1) 床面積の算定は、当該階の床が存する部分とする。
- (2) 開口部の面積の算定は、床が存する部分の外壁開口部の合計とする。

第4-2図

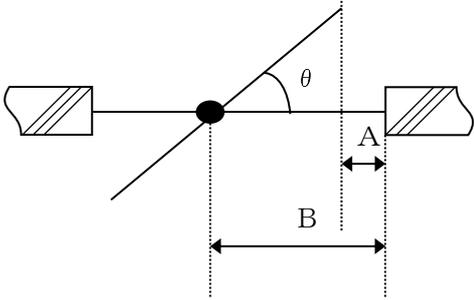
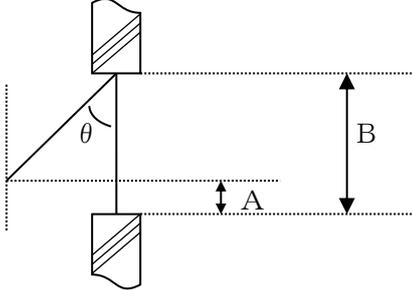
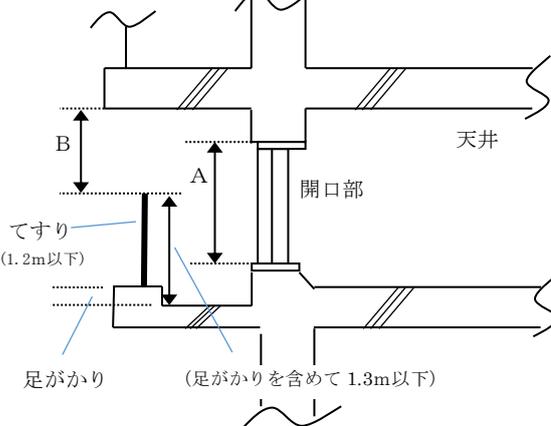
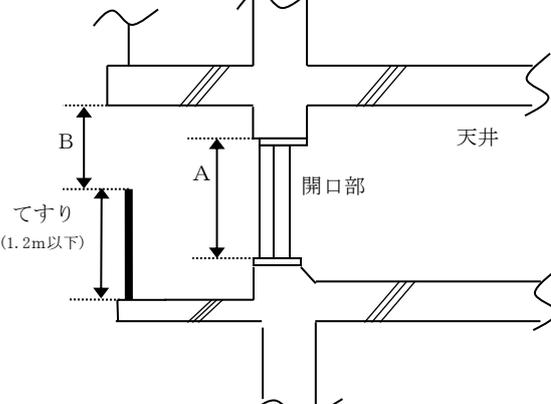


備考 A : 床面積を算定する部分  : 開口部 (開口部面積を算定する部分)
 : 開口部 (開口部面積を算定しない部分)

7 開口部の面積算定は、次の各号によること。

- (1) 開口部を最大に開放した場合の面積をもって算定する。
- (2) 引違い窓、はめごろし窓等の開口部で容易に取外し、又は破壊等の可能なものは、取外し、又は破壊をした場合の最大開放面積をもって算定する。
- (3) その他、開口部の有効寸法の算定は、開口部の型式により第4-2表によること。

第4-2表

	型 式	判 断
回 転 窓	 <p>(注)θは、最大開口角度(0度~90度)</p>	<p>Aの部分とする。 (注) $A = B (1 - \cos \theta)$</p>
突 き 出 し 窓	 <p>(注)θは、最大開口角度(0度~90度)</p>	<p>Aの部分とする。 (注) $A = B (1 - \cos \theta)$</p>
外 壁 面 に バル コ ニー 等 が あ る 場 合		<p>(足がかりがある場合) Aの部分とする。 ただし、Bは1m以上で、手すりの高さは、1.2m以下とする。なお、足がかりを含めた高さは、ベランダの床面から1.3m以下とすること。 なお、この場合、排水用等の溝の深さは含まないものとする。 ※「足がかり」とは、こどもが他の部分につかまりながら登る危険性のある部分をいい、こどもの足がかかる部分は当該部分に該当するものであること。</p>
		<p>(足がかりがない場合) Aの部分とする。 ただし、Bは1m以上で、手すりの高さは、ベランダの床面から1.2m以下とすること。 なお、この場合、排水用等の溝の深さは含まないものとする。 また、腰壁が手すり代わりとなっている場合等についても、同様とすること。</p>

8 次に掲げる開口部は、第3項第2号イに規定する「破壊作業のできる足場が設けられているもの」と同等のものとして取り扱うことができる。

(1) 消防隊積載の折りたたみはしごを容易に架ていすることができる開口部

(2) 直径1 m以上の円が内接することができる開口部又はその幅及び高さがそれぞれ0.75 m以上及び1.2 m以上の開口部で、消防隊積載の折りたたみはしご、又ははしご付消防ポンプ自動車等のはしごを容易に架ていすることができる10階以下の階にあるもの。